

第5回日本遺伝学会春の分科会開催報告

本年度の春の分科会は、3月4日・5日(火・水)の2日間、国立遺伝学研究所の講堂で開催されました。参加者は約50名で、「若者フォーラム」として、1日目には遺伝若手の会企画による講演会「若手研究者のリアル」が行われ、2日目には若手研究者によるショートトークおよびポスター発表が実施されました。1日目の講演会では、4名の若手研究者が登壇し、研究やその他の活動(研究申請、論文査読など)における試行錯誤、今後の目標、私生活とのバランスについて、具体的に発表してくださいました。これにより、今後の研究環境を整える上で重要な情報が提供されたと思います。最後の講演者として、近畿大学の篠原美紀先生が、ご自身の研究キャリアを振り返りながら、重要な研究成果を挙げつつ、自らのポジションを得る過程で大切だった点をご紹介くださいました。参加者にとって、貴重なアドバイスとなる講演だったと思います。2日目は、若手研究者の発表に先立ち、日本遺伝学会会長の岩崎博史先生にご登壇いただきました。先生には、大学院生・助手時代の試行錯誤の末に得た研究成果を振り返っていただき、予想外の研究の展開がもたらす魅力についてお話しいただきました。研究を楽しむ上で重要な要素について学ぶ機会となったと思います。ショートトークおよびポスター発表では、16件の発表が登録され、1時間半のポスター発表の時間が足りなくなるほど、活発な質疑応答が行われました。特に、分野の垣根を越えて多くの議論がなされ、発表者にとって自らの研究を説明するための方法を振り返るとても良い機会になったはずです。来年度の第6回開催の時期・内容については現時点では未定ですが、参加者の皆さまのご意見を参考にしながら計画を立てていきたいと考えております。

遺伝普及・教育担当幹事
大学保一



岩崎会長



角谷次期会長



大学幹事